

## 審 議 会 会 議 録

会議名称	令和4年度第1回 伊達市廃棄物減量等推進審議会		
議 題	(1) 令和4年度清掃事業概要について (2) ごみ処理手数料の現状について		
開催日時	令和5年3月23日（木）13時30分～14時30分		
場 所	伊達市役所 第2庁舎会議室1		
出席者	出席委員9名（欠席委員2名）		
	所管部課名	経済環境部環境衛生課 (経済環境部長・経済環境部参与・環境衛生課長 環境衛生係長・環境衛生係主任2名 計6名)	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	無し
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p><b>【会議の概要】</b></p> <p><b>1 開会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、委員定数11名中9名の出席により会議が成立していることを報告。</li> <li>・審議会委員の自己紹介及び事務局の紹介。</li> </ul> <p><b>2 委嘱状交付</b></p> <p><b>3 役員選出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長に伊達市社会福祉協議会の菅原委員、副会長に環境美化推進員の栗津委員を選任。</li> </ul> <p><b>4 議事</b></p> <p>(1) 令和4年度清掃事業概要について              &lt;質疑応答&gt;              特になし</p> <p>(2) ごみ処理手数料の現状について              &lt;質疑応答&gt;</p> <p>■委員：手数料の算定経費について令和6～8年度は新中間処理施設に係る経費で積算していると記載があるが、これは今建設中の施設で計算しているということでしょうか。</p> <p>□事務局：今建設中の施設でかかってくる費用となる。西いぶり広域連合よりこれくらい負担がかかるという資料があり、それを基に算出している。</p> <p>■委員：そういう意味では上がる方向という捉え方でよいのか。新しい施設を建設し稼働していく中で普通に考えて費用が上がっていくと考えるが。</p>			

□事務局：経費については新施設になることで今の施設より少し下がることとなると思われる。ただ、資料にあるとおり経費の負担が多くなっているという現状。

■委員：さほど単価が変わるというほどでもないのですね。

■委員：室蘭市では昨年からごみ処理手数料が上がっているが、それは新しいごみ処理施設での経費で算定しているということなのか。

□事務局：その通りである。

■委員：ということは、伊達市もそれに倣ってやっていきたいということか。

□事務局：同じような計算方法で算定している。

■委員：室蘭市の状況について少し説明する。室蘭市は令和4年4月からごみ処理手数料を値上げしたが、その議論については約2年前からスタートしている。本来であれば、今あるごみ処理施設を安く改良して延命化できればよかったが、残念ながら今の施設をこれ以上稼働させていくのは難しいという判断となり新施設を建設することになった。費用が20年間で約400億円ということで半分が建設費、もう半分が運営費となっているが、昨今の社会情勢から特に工事費が非常に増加している。伊達市の負担がどれくらい増加しているかはわからないが、おそらく数億円変わってくると思われる。こうした社会情勢と室蘭市の財政状況を考えた時に不安だということで、協議するようになったという経過がある。令和3年4月には登別市もごみ処理手数料を値上げしたというのもあり、それも契機になった。

室蘭市は少子高齢化が進んでおり、この先20年間くらいの人口の推移、減り方を考えたときにごみ処理手数料を値上げしても、それを負担する人口は減っていく見込みのため手数料収入が減っていくと思われる。その一方でごみ処理に係る経費は、20年間でいくらという契約をしているのであまり変わらず基本的にその金額を下げることはできない。つまり、大きい施設を少ない人口で支えていくということになり、一人あたりの維持管理費がどんどん増えていくと見込まれる。室蘭市は特に財政状況が厳しいということもあり、ごみ処理手数料を40Lあたり80円から120円と改定したが、それでも手数料の負担は約3割程度で残りの7割は税金で負担していることになる。これは水道などの公共事業についても同じでかかる経費をすべて市民負担させているわけではないが、ごみ処理経費については少し税金の負担が大きいという状況である。また伊達市は室蘭市より早く平成元年からごみ処理手数料を導入しているが、それよりも前は無料だった。それが有料になるということで反対もあったと思われるが、当時は全国的にごみ処理にお金がかかると思っていなかった。今はごみ処理にかかるコストも無視できないくらい大きいものとなっていて、それを税金だけで負担するというのは財政状況的に難しいという現状がある。そういうことがあって室蘭市は2円/Lから3円/Lにしたが、今後も人口減を考えると今値上げしても5年後にはまた状況が変わっていて見直すこととなると思う。悲観的な見方でいうと状況はあまりよくなるらない。でも何か対策を考えなくてはならないので、ごみの量を減らしましょうとか収集体制の見直しでコストを減らしましょうとなる。

おそらく伊達市の場合も全体の経費のうち3割程度は収集コストだと思われるが、ごみを収集することはとてもお金がかかる。室蘭市はごみ処理施設の運営費にかかる経費と収集にかかる経費に対してごみ処理手数料を上げたわけだが、収集経費を下げるために、室蘭市は伊達市の倍くらいのごみステーションがあり、それを減らしましょうとしている。また、ごみの減量ということでリサイクルをやっているが、今までそのリサイクルの経費がどれくらいかかっているかというのはあまり見てこなかった。費用対効果でリサイクルの政策を継続していくのかどうかを考えなくてはいけない時になっている。

室蘭市はたくさんごみステーションを置いて市民にとってごみを出しやすい環境を作っていたのだが、人口が減って出されるごみステーションの数が減っていくとなるとごみステーションを集約していかなくてはいけない。人口減ということである社会福祉も同じだと思うが非常に大きなインパクトがあつて、ごみの問題というのは社会全体の仕組みが変わらざるを得ないという中でごみの収集や処理の経費の考え方は置いていかれている、サービスだからいいだろうとなっている、こうした状況の中で室蘭市が思い切ってプラスチックの収集をやめるという選択をした。これは新しいごみ処理施設ができるということもあり、もともと伊達市でもやっていたと思うが、今の処理施設ができるときにやめたと思う。それは、分別して収集していてもリサイクルをしてくれる業者がない、収集にもお金がかかるということだと思うが、室蘭市はそれができなくて今までは九州とかに持って行ってエネルギー資源としてリサイクルしていた。だが、これからは西いぶり広域連合で燃やしてエネルギー資源にしようとしている。しかし、全国的にみると逆行していて今は多くの自治体がプラスチックの収集を増やしますよとなっているが、実際に地方自治体がそれをやる財政体力が本当にあるのかが疑問。東京や札幌など都市部であればできるかもしれないが、伊達市の場合だと大滝区も含めたら収集範囲が広く、そこでプラスチックの分別収集も行おうとなると、人口密度とかも考えると全然違う。

今までどおりのごみステーション数で収集サービスを継続していくとコストが上がって手数料がどんどん上がっていく。だけどそうはいかないので、収集コストを含めた全体のコストをどうやって下げるかということをお各自治体が考えなくてはならない。もう1つ言えるのは財政的に税金の負担をせいぜい3割くらいに抑えることができるか、これは各自治体の財政状況によって違うと思うが、室蘭市の場合は、検討委員会でも総論は賛成だが、いきなり来年から5割値上げは急すぎるという意見があり、もう少し段階的にできないかという意見があつた。

■委員：それでも室蘭市はやったということだが、批判とかはなかったのか。

■委員：住民説明会を開催した。そこで最初に出た意見は、まずしっかりコストを抑える取り組みをしているのかということ。現状で年間約8億円かかっている経費は本当に必要なのか、有料化の話だけでなく、今回の資料にごみの減量化と収集体制の見直しと書いているが、全体をやってもごみ処理手数料を値上げしなくてはならないという風にならなければいけないと思う。伊達市の場合は6.9円/Lということだが、室蘭市の場合は単価を算出したところ4円/Lとなり、これにハードウェア、施設建設の経費を入れると6円/Lとなり、最終的には実際の負担は3円/Lということで50%の負担になった。

どれくらいお金がかかっていて、そのうち手数料として市民がどれくらい負担して、そのほかを税金で負担していくということを住民やこの審議会で語り、そのうえでごみ処理はサービスだから税金で負担するという考え方もあるし、ごみの減量化を積極的に取り組んでいる市民の方へインセンティブを与えて手数料を値上げしても減量化に取り組んでいる人はあまり影響を受けないという考え方もある。それを市民の方に選択してもらおう。室蘭市は令和4年4月から値上げしたが、また5年以内に見直すことにして、これから2年かけて準備をして結果がわかるのがさらに2年後で大体5年くらいかけて見直しをしていく。

その結果4円/Lとするのか、それまでにごみの収集コストを下げるができるのか、20年間据え置きでいけるのではないかという見込みですときたけども、おそらくこれから先は5年スパンくらいで見直しをする必要がある。その結果を住民の方に選択していただくというプロセスが大事で、それぞれのデータや実情を見て伊達市としてはどういうところに向かっていくのか、審議していかななくては行けない。室蘭市は値上げをしたが、正解かどうかはわからない。もう少しやらなくては行けない取り組みもある。ただ今話した通りこれから20年間新しいごみ処理施設が稼働していくというコストと、それに対してコストを支払う人口はどんどん減っていくという状況を見てごみの収集体制の見直しとを一緒にやって手数料の金額をどういう風に設定して税金をどのくらい投入してということを決める必要がある。

■会 長：これからの議論に参考になる話が聞けたのではと思う。

■委 員：この審議会の前にごみの収集のあり方に関するワークショップに参加した。その中で出た意見としてこれからはごみはマイナスのイメージではなくて収入を生む方に発想を変えて考えた方がいいのではという意見があった。私はそれに賛成という思いがあり、ただそのために処理施設を建設したり、投資があるのであれば財政的な問題があると思うが、今資源回収をやっているが、昔札幌市に住んでいた時にマンションで空き缶やペットボトルを収集すると年間で万単位の収入となっていて、それによって自治会費が安くなるという制度があった。ただ、自治会に入るお金を伊達市が払っているのであれば意味がないと思い、和歌山県の有田川町の取り組みで資源ごみの空き缶やペットボトルのキャップやラベルを取って、中も洗ってきれいにするとごみの品質、レベルが上がり回収業者が高く買ってくれることがあり、それを利用することで回収業者ではなく買い取り業者との取り引きになり、結果としてその町にとってプラスの収入になったという実例がある。それだと経費をかけないで、住民に今の現状をどうやって公表するかは難しいところだが、住民にもそういう意識を持ってもらおう、住民努力で変えられるところもアピールして、考え方を変えていかないとごみの問題を解決しないのではないかと思う。

伊達市のいいところは堆肥センターがあるところだと思っているが、いい品質の堆肥はネット通販などで非常に高く売れる。住民の出す生ごみのレベルを上げて、いい堆肥を作ることによって例えばふるさと納税の商品にできれば、ごみがただのマイナスのイメージではなくてプラスに変えていくイメージを持つことができ、それが大事ではないかと思う。

■会 長：今の内容については、次回以降こうした議題が出てくると思うので、お話ししていただければと思う。

■委員：ごみの話は非常に身近な問題で、こういう場所で議論するのと実態としての身近なことといろいろな問題が出てくると思う。そこは前向きに対応してあげないといけない。室蘭市の手数料を値上げしたが、ごみ袋は破けやすくなったといった話が出てくる。そのため、慎重にかつ前向きにまっすぐに議論をしていく必要がある。身近な話だけに多くの方が関わってくるため理解して行動する人もいるし、そうじゃない人も必ずいる。

■委員：私たちはリサイクル活動としてペットボトルのキャップを回収していた。しかし、数年前からキャップの回収業者から回収できなくなったと言われ回収しなくなった。回収業者に聞いても回収しないのでごみに出してくださいと言われるだけで、何が原因かわかるか。

□事務局：キャップを回収していた業者が回収しなくなったということだが、なにかわかるか。

■委員：ペットボトルキャップを大量に集めるとワクチンに変わるという業者だと思うが、何が原因かはわからない。

■委員：ペットボトルのキャップやプラスチックなどのその他プラスチックの回収を室蘭市はやめたが、きれいにして回収するクオリティが大事で、回収後は容器包装リサイクル協会に渡すのだが、一定のレベルでないと引き取らない。西いぶり広域連合が私たちから集めた資源物を回収して異物を取り除く作業をしているが、もし最初からキャップやラベルがなかったら異物を取り除く作業も少なくなる。実際に現場に行くと、作業員がキャップの付いているものは中身が入っていることが多いのでキャップを外して中身をゆすいでという作業をしている。その作業を減らすためには、私たち自身がペットボトルを捨てる時はきれいにすることが必要となるし、その結果クオリティが上がっていくのでリサイクル協会での引き取りも異物が少なければ単価が上がり高く売れる。

ただしプラスチックのリサイクルは例えば、ペットボトルはPETと書かれて単一なものに対して、その他のプラスチックというのはポリエチレンやポリスチレンなど複数の種類があり、混ざってしまうとマテリアルリサイクルといってプラスチックからプラスチックにすることが非常に難しい。基本的に多くの場合はサーマルリサイクルといって集めたプラスチックを鉄鋼など燃料を入れる際にコークスと一緒に入れることでコークスを減らしながらもプラスチックが入っているので熱量が上がる仕組みで熱回収するものである。これはペットボトルがリサイクルされて新しいペットボトルになると考えている人からすれば本当にリサイクルなのかという意見もある。ただ、現状集められているその他のプラスチックというのはサーマルリサイクルになっている場合が多い。その処理途中も残渣が出てそこでリサイクルはできなくなるので、それから先はまた焼却施設で焼却となる。札幌市で集めている回収量の2割くらいは焼却になっていると思う。リサイクルは非常にお金がかかるということが、集めている中にもキャップが付いていたり、瓶でも色が分けられてないたったそれだけで、100個のうち2個とか3個あってもだめとなる。緑の瓶が透明な瓶に入っただけでリサイクルができなくなる。それを取り除かなくてはいけないので、そのコストがかかるわけです。

100人いて1人や2人が違反してもだめになってしまう。これが非常に難しい。伊達市は人口が約3万人で中くらいの町のため近所のごみステーションの管理や、分別の徹底が非常にしやすいのではないかと感じているが、室蘭市の場合は人口が多く、かつクオリティが低いのでなかなかリサイクルが進まない、プラスチックの中にも2割から3割は入れちゃいけないものが入っていてこれではその他のプラスチックのリサイクル収集を継続することは難しい。結局さっきのペットボトルのキャップを集める業者さんも単一で集めるのが難しくなり、サーマルリサイクルの方に回すってことが多いのかなと思う。

これは一長一短あって世の中の材質がすべてペットボトルになってくれれば素材が1つだけなので非常にリサイクルがしやすくなるのですが、私たちの手元にあるプラスチック製品は素材が1つではないので難しい。ごみも収入になるという話もあったが、基盤の中に金属がある小型家電を買い取るという業者があったり、今はアルミ缶やスチール缶の買い取り額も高くなっているらしいが、問題は集めることでお金になるというのは事実だが、そこにはクオリティが重要で99%アルミ缶というものと3割程度スチール缶が混じっているものだと価値が全然変わってくる。どこまで分別できるのか、市民がどれだけ協力してくれるのかということになる。だから自分たちが出した資源物が西いぶり広域連合でどうなっているか見るのも重要だと思う。現状はなかなか分別されておらず、多くの異物が入っていて、それを分別するのがどれくらい大変なのかを知る必要がある。

今の伊達市や室蘭市でリサイクルできるものとしても、収集コストが高すぎるとリサイクルできるものはあるが、果たして費用対効果がどれくらいあるのかというのを考えなくてはいけない。リサイクルできるかできないかというのはその町にリサイクル事業者があるのかなのかということも大きく影響される。

恵庭市の場合だとリサイクル事業者が近くにあり、いつ小型家電やペットボトルを持ち込んでもいいリサイクルコンビニと呼ばれているものがある。千歳市も地元でリサイクル事業者があって、すごく近くに事業者があるところということができるのだが、残念ながら室蘭市や登別市でやるとそこまで持って行かないとリサイクルできないので、その輸送費を考えなくてはならない。集めて終わりじゃなくて集めて処理施設まで輸送しなくてははいけない。堆肥のリサイクルは現地で集めて現地で堆肥にして現地で消費する地産地消に近い形であまり負荷がかからずできていると思う。これが札幌市でやろうとするとなかなか難しいと思う。そういう面で堆肥化については伊達市には向いていて札幌市には向いていないことになる。リサイクルできる施設が近くにあるかどうかリサイクルした品質がどうか、各自治体が最初に設定したものがうまくいかない、どうしてだろうと考えたときに室蘭市ではこういう状況、伊達市ではこういう状況というように各自治体で実態が異なるので非常に難しい問題だと思う。

## 5 その他

- ・次回開催は新年度の5月以降を予定している。会議の内容と併せて案内する。

## 6 閉会